



国際パラ・ボブスレー競技規則 2018年版

国際パラ・ボブスレー競技規則 2018 年版

この文書で明確に記載していることを除いて、**現在の**国際ボブスレー競技規則に記載されている全条文は、パラ・ボブスレーに同等に適用する。この文書の参照番号は、**現在の**国際ボブスレー競技規則の条項番号と一致している。

第 1. 4 項 — 国際トレーニング期間

パラ世界選手権大会の主催者は、大会に備えるために国際トレーニング期間を 1 回提供しなければならない。国際トレーニング期間は、計画されているパラ世界選手権大会と同じ競技シーズン中に行われなければならない。主催者が、前競技シーズンに同じトラックでワールドカップを開催した場合は、この国際トレーニング期間の実施は免除される。

パラ世界選手権大会を控えた期間中、主催者は、モノボブの練習滑走を最高で 15 ユーロの料金で提供しなければならない：

第 1. 6 項 — 性別

パラワールドカップ及びパラ世界選手権大会において、競技は男女混合である。

第 2. 4. 2 項 パラ・ボブスレー

第 2. 4. 2. 1 項 パラ・ボブスレー (PB)

第 2. 4. 2. 2 項 パラ・ボブスレー・プッシュ (PBP)

第 3 項 — 参加資格

他の特定要件に加え、パラ大会のために、選手は、IBSFパラ・ボブスレー及びパラ・スケルトンクラス分けマニュアルで定められたクラス分け作業を完了していなければならない。PBあるいはPBPのいずれかにクラス分けされなければならない。パラ・ボブスレー (PB) への参加はPBまたはPBPのクラス分けが必要である一方、パラ・ボブスレー・プッシュ (PBP) への参加はPBPのクラス分けが必要となる。2019-20 シーズン当初において、パラ・ボブスレー (PB) への参加は、PBへのクラス分けのみが必要となる。

第 4 項 — 大会参加資格

パラ世界選手権大会において、各国から各種目に男子 2 名及び女子 2 名以上の参加となる場合を除いて、各種目にランキングされている全選手は参加資格がある。当該シーズンあるいは昨シーズンに少なくとも 2 つの異なったトラックにおいて開催された大会に最低 3 回参加し、順位結果を持つパイロットだけが参加資格を有している。

パラワールドカップにおいては、全ての国から男女それぞれに最大 3 人まで参加することができる。大会主催者は、トラックの限界を理由とする必要に応じて種目別の最大参加者数を制限で

き、その制限は招待状で告知される。

第4. 4項 - コンチネンタル選手権大会

コンチネンタル選手権大会の参加資格は、コンチネンタル選手権大会がパラ・ワールドカップ大会と同一開催する場合は、パラ・ワールドカップと同一とする。

第5項 - 大会運営

パラ競技大会において、IBSFが統括組織である。

第6項 ジュリーと技術代表

パラ世界選手権大会及びパラワールドカップにおいては

- 技術代表 1名
- ジュリープレジデント 1名
- ジュリーメンバー 2名
- ジュリーアシスタント 必要に応じて

第8. 4項 - ライセンス

パラ・ボブスレーの最低参加年齢は、ボブスレーと同じとし、モノボブとは同一ではない。

第8. 6項 - エントリー

パラ・ボブスレー大会のエントリー代は、IBSFにより決定され、IBSFに支払われる。エントリー代は大会招待状で告知される。エントリー代は電信送金で支払わなければならない。IBSFパラ・スポーツコーディネーターと事前合意した場合には、現地の第1回チームキャプテンズミーティングの前にエントリー代を支払うことができる。

エントリー料金に加えて、選手は、IBSF特定権利放棄書類及びトラック特定権利放棄書類に署名し、第1回チームキャプテンズミーティングの前にIBSFコーディネーターにこれを提出しなければならない。18歳未満の選手の場合、これらの権利放棄には親または保護者の署名が必要となる。

第8. 12. 2項 - 利用自由な広告箇所

パラ・ボブスレー種目において、そりはIBSFに100%所有される。すべてのそりはIBSFのスポンサーシップのために保有されている。

第10. 1項 - 公式練習

練習滑走は、ジュリーにより決定され、大会招待状あるいは最初のチームキャプテンズミーティングで告知される。すべてのパラ競技大会では、転倒せずに成功した練習滑走2本が、競技大

会への参加のために求められる。2017-18 シーズン及び 2018-19 シーズンの間、パラ・ボブスレー・プッシュの選手は、練習滑走中プッシュ技法か座位技法（パラ・ボブスレーPB）のいずれかを使用してよいが、競技で使う技法で少なくとも 2 回の完走をしなければならない。

公式のパラ・ボブスレー・プッシュの競技が大会中に開催されない場合、選手は、練習滑走あるいは不適格滑走としてみなされるデモンストレーション滑走とすることなく、大会の一環とされるパラ・ボブスレー・プッシュのデモンストレーションに参加することが認められる。

いずれの国も、公式練習への参加は最大 6 選手までであるが、競技滑走には 1 か国あたり最大 3 選手しか参加できない。二重大会の週においては、選手が最低 2 回の練習滑走を完走しているのであれば、国は大会中に別の選手を代わりに出場させることができる。

第 10.6.4 項に従ってそりの共有が必要である場合、一つの国には、1 大会の実エントリー数に対応するそりの数だけ割り当てられる。その結果として、その国の選手間で共有される付加的なそりは、その国のチームキャプテンが管理する。

装備の準備

各セッションの後、選手とチームキャプテンが翌日に使用する装備の準備をするために、最大 1 時間が提供される。選手のみがランナーを磨くことを認められている。そりを共有している選手は、練習期間中、装備の準備を一緒に作業しなければならない。

選手アスリートまたはコーチによるそりの内部での整備作業は、認められない。そりの整備に懸念がある場合、選手あるいはチームキャプテンは I B S F の整備士にさらなる調査や調整を依頼できる。テープ、デカール（シール、ステッカー、マーキング、ペイント等）、画像の追加など、そりの外側には、いかなる類の変更も認められない。

チームキャプテンは、次の日の練習または競技においてそりに付加したいおもりの重量を各練習セッションの 1 時間後以内に、ジュリープレジデントに知らせなければならない。最後の練習セッションの後、各チームキャプテンは、競技のためにそりに付加したい希望重量を、署名による確認をしなければならない。

第 10. 6. 1 項 — 競技滑走

パラ世界選手権大会では、4 本の滑走が行われる。パラ・ワールドカップでは、2 本の滑走が行われる。

2 本滑走の大会において、グループは以下のように競技を行う。

1 本目滑走：A – B – (C…)

2 本目滑走：(…C) – B – A

4本滑走の大会において、グループは以下のように競技を行う。

- 1本目滑走：A－B－（C…）
- 2本目滑走：（…C）－B－A
- 3本目滑走：A－B－（C…）
- 4本目滑走：（…C）－B－A

第10. 6. 4項 － スタートナンバー

そりは、第1回チームキャプテンズミーティングの無作為抽選で選手に割り当てられる。2本滑走のパラ・ボブスレーにおいて、スタートナンバーは、使用するそりに基づいてパイロットに割り当てられる。4本滑走のパラ・ボブスレーの場合、選手は、公式練習最終日の後のチームキャプテンズミーティング中に、当該年のIBSFランキングに基づいてスタートナンバーを選択する。ランク入りしていない選手は、ランク入りしている選手がスタートナンバーを選択した後、無作為抽選に基づいてスタートナンバーを選択する。効率的な大会運営のため、選手のビブの番号は、スタートナンバーではなく、そり番号とする。

二重大会においては、選手は第1大会の1本目滑走でスタートナンバー順に、第2大会の1本目滑走でスタートナンバーの逆順にスタートする。第2大会で各国に交代する選手がいる場合、交替した選手は元の選手に割り当てられていたそり及びスタートナンバーを使用する。交代した選手の大会において、第1大会からの選手はこれらのグループ割り当てに用いられる。

利用可能なそりより選手のほうが多い場合、そりは共有することとし、選手は最高ランクの選手をグループA、次に高位の選手をグループB、以下同様に選手のIBSFランキングに基づくグループに割り当てられる。各グループは、そのグループの選手にそり番号を割り当てるランダム抽選を行い、必要に応じて各グループの最下位の選手がそり番号を共有する。

例：パラ・ボブスレーの大会で10台のそりを使用する13人の選手がいる。上位10選手はグループAとし、残りの選手はグループBとする。選手にランキングポイントがない場合、無作為抽選で各グループ内の順番を決める。3台のそりが共有されなければならないので、上位7選手のためにそりの無作為抽選が行われ、これらのそりは共有されない。グループAの最後の3台のそりについては別の無作為抽選を行い、グループBの選手は、登場する順番でこれらのそりを共有する。（グループAの8位とグループBの1位が共有、グループA9位とグループB2位が共有など）

第10. 6. 8項 － スタート

パラ・ボブスレー（PB）では、選手は、そりがスタートに到着する前に、ドライバーの位置に乗り込むものとする。IBSFから提供された機械式発射装置が、一様なスタート速度でスタート地点のすべてのそりを押すことに使用される。機械式発射装置が利用できない場合、そりがスタート近くの定位置まで搬送されて、滑走を開始するために放たれる重力スタート（gravity

start) を、ジュリーが監督する。トラックの特性に応じて、ジュリーは競技のスタート位置を決定する権利がある。

パラ・ボブスレー・プッシュの場合、選手はモノボブに乗り込む前に、氷上で最低3歩のステップを取らなければならない。

第10.6.13項 - 試滑走そり (パイロットスレッド)

パラ・ボブスレー競技の前に、2人乗りボブスレーあるいはモノボブを試滑走そりとして使用できる。

第10.7項 - パルクフェルメ (そり置き場)

パルクフェルメは、装備の準備を可能にするため、それぞれのトラックの特殊条件を組み入れ、適合させなければならない。

パルクフェルメは競技開始75分前に選手がランナーとそりを準備できるように解放する。パルクフェルメは競技開始45分前に閉鎖し、すべての準備作業は終了されなければならない。ジュリーの承認を受けたうえで必要に応じてIBSFの整備士がそりの準備を支援できることを除いて、選手のみがパルクフェルメのそりとランナーに作業することができる。

ヒート間のパルクフェルメにおいて、選手によるサンドペーパーを使用する研磨は、ランナーへの損傷があって、ジュリーに研磨の承認を得た場合のみ認められる。

第10.8.2項 - ランナー

第10.6.8項に記載されているパラ・ボブスレー (座位) に関するものを除いて、いかなる推進力の使用も禁じられている。

第10.9項 - 技術検査

パラ・ボブスレーにおいて、そり及びランナーはIBSFによって所有・管理されており、競技中にさらなる技術検査は行われぬ。

第10.11項 - ランナー温の計測

パラ・ボブスレーにおいて、ランナー温は、競技開始前にパルクフェルメで検査される。

第10.14項 - 重量

パラ・ボブスレー (PB) において、選手及び付加する選手おもりの最大重量は100kgとする。パラ・ボブスレー・プッシュにおいて、選手及び付加する選手おもりの最大重量は110kgとする。

第11.1項 - 競技シリーズのランキング表

パラ・ボブスレーのランキング表は、競技シリーズランキング及び賞が適用される競技シリーズ一覧に加えられている。

第11.2項 - IBSFランキング表

パラワールドカップのランキング表は、NAC/ECシリーズの競技と同様に取り扱われ、第11.3項の同じポイント表が使用される。

第12項 - ボブの構造及び図面

これらのすべての条項は、適用できない。パラ・ボブスレー競技は、IBSFが所有・管理するモノボブを使用する。競技に提供されるすべてのモノボブは、同一の製造業者からのもので、構造と仕様は基本的に同一のものである。